



平成20年3月19日

各 位

神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目5番14号
株式会社メディネット
代表取締役CEO 木村佳司
(コード番号:2370 東証マザーズ)
問い合わせ先 経営企画部長 鈴木邦彦
電話番号 045(478)0041(代表)

～新たな遺伝子・免疫治療技術の早期実用化へ～ メディネット、九州大学と基本契約を締結

株式会社メディネットと国立大学法人九州大学(福岡市東区、総長:梶山 千里)とは、遺伝子・免疫治療技術の普及促進を図るべく、相互に協力していくことで合意し、共同研究に係る基本契約を締結いたしましたので、お知らせいたします。

九州大学生体防御医学研究所では、ゲノム機能制御部門 ゲノム病態学分野(教授:谷 憲三朗)を設け、免疫細胞療法ⁱ や遺伝子治療、再生医療に係る研究開発に取り組んでいます。また、同分野は、九州大学病院における先端医療の実施ユニット「先端分子・細胞治療科」として、がんや血液疾患等を対象として、化学療法、分子標的療法ⁱⁱ、樹状細胞を用いた新たな免疫細胞療法等を用いた診療ならびに臨床研究等を実施しており、研究から臨床開発、診療までを一貫して行なう体制を整え、次世代医療の普及に向け、積極的なトランスレーショナル・リサーチを推進しています。

一方、メディネットは、1999年に免疫細胞療法総合支援サービスⁱⁱⁱを中心とする細胞医療支援事業をスタートして以来、患者数約7,000名、細胞加工件数にして56,000件を超える免疫細胞治療の実施を、細胞治療技術・ノウハウの供与、細胞加工施設の企画設計・運用を中心とする包括的なサービスで支援してまいりました。また、既存技術に止まることなく、免疫学、細胞工学、分子生物学分野における技術と知見、豊富な臨床支援経験に基づき、更なる治療効果の向上と治療選択肢の拡充を図るべく、新たな細胞治療技術の研究及び開発を推進しています。

今般の基本契約は、九州大学生体防御医学研究所とメディネットとが、双方の知見、技術・ノウハウを持ち寄り、がんを始めとする難治性疾患に対する遺伝子・免疫細胞治療技術に係る臨床研究、関連技術の開発・検証ならびに、このような次世代医療を実施するにあたって必要となる信頼性保証及び施設運用体制の構築・整備等を、相互に協力し、共同で実施していくことに合意したものです。今後は、両者で具体的なテーマ、内容等について検討・策定を行なった上で個別共同研究を実施し、遺伝子・免疫細胞治療技術の普及医療化ならびに新規技術の早期実用化を目指していく予定です。

尚、本件の業績に与える影響は軽微であります。

以 上

本件に関するお問い合わせ:

株式会社メディネット 広報グループ
神奈川県横浜市港北区新横浜 2-5-14
045-478-0041(代表)

i 免疫細胞療法

患者自身の血液から免疫細胞(リンパ球など)を取り出し、体外で薬剤を用いて活性・大量増殖させたうえで、再び点滴による投与で患者様の体内に戻すことを繰り返し、免疫細胞の働きを人為的に大幅に強め、力のバランスを免疫の方に傾けることによって、異常細胞(がん細胞)を排除する治療法。自己の細胞を用いるため、本質的に副作用がなく、入院の必要がない外来での治療が可能であり、患者QOLを高く保てるなどの特徴がある。

ii 分子標的療法

腫瘍細胞の増殖のメカニズムに関与する個々の分子を標的とした治療。

iii 免疫細胞療法総合支援サービス

免疫細胞療法を安全かつ効率的に実施するために必要な技術・ノウハウ、施設・設備、資材、専門技術者、情報システム等を、医療機関に対して包括的に提供するサービス。